

# 「新病院の基本設計」などを具体化

## 再考を!

「新病院整備に係る基本設計」についての市立病院整備調査特別委員会が4月21日開催され、①基本設計、②土壌汚染調査結果、③新型コロナウイルスによる工事の中断(5月7日再開)、④6月議会で議案上程される内容、新病院の開設計可をとるための設置条例制定、「キセラプラザ」用駐車場を病院にも使用できるように条例改定、初診料500円への引き上げなどが報告、説明されました。

屋上緑化のコストは?

基本設計(図・図面)では、新病院は屋上緑化の予定ですが、インシヤルコストとランニングコストは「いくらかかるかの詳細は実績の中で詰めていく予定と聞いている。費用は指定管理者の方の負担。」との答弁でした。建設費用は、100%市債発行で充当し、市民の税金を使つて建設される公立病院なのにあまりにも無責任な答弁にあきれ返ります。「厳しい市の財政」でも、病院建設は特別扱い・協和会任せということでしょうか。

驚く図面まちがい

驚いたのは、図面の表示まちがいと対応。図面には8階に共同トイレがない、トイレがある個室も全

院内食堂はない

新病院は、院内調理ですが、外来患者やお見舞いの方用の食堂や喫茶はなく、100㎡余の売店があるだけです。

分かりやすい配慮を

また、図面上は、ごみ置き場とご遺体の搬送口が同じ場所に見えますが、実際はどうかを確認し配慮すること。病院のワンストップ待合の名称が「キセラガーデンストリート」ですが、

働く人の総数わからない?

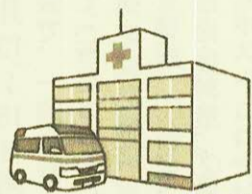
基本計画によると、医師80、90名、看護師約400名、医療技術職約100名と記載されています。ほかに厨房や清掃、事務職を含め、新病院の想定スタッフは総勢何名か、更衣室や休憩室の確保は、の質問に「スタッフの人数、総数についてはつかめていない」。乳児室4部屋を含む405床(ICUなども保有)を稼働させるための職員確保について、感染予防の観点や職員の更衣室、ロッカー確保など福利厚生なく、改めて正しい資料の提出を

と、ところが市は、間違いを認めず、しどろもどろの答弁を繰り返すばかり。議会に配布される公文書であり、市長決済まで終えているのに誰も間違いに気がつかなかったのでしょうか。清水建設お任せなのか、市議会への説明くらいと軽くみていますのでしようか。

再考すべき!

議員には訂正資料

当局からは、間違いを認める発言や資料再提出の発言も少なく、改めて正しい資料の提出を再考すべきと感ずります。



## 私(黒田)が訴え続けていること

私(黒田)は、川西市の「医療構想」には問題が多く、見直しが必要であることを一貫して主張し続けています。

### いくつかの問題点

①市立川西病院(250床)と協立病院(313床)との統廃合で市内急病ベッドが163床減らされる、②市北部・猪名川・豊能・能勢地区からCT・MRなどの検査と入院できる二次救急病院がなくなる、③市職員は全員解雇され、貴重な医療資源が失われた。年2億6000万円の給与差額を補填中、④新病院400床の医師・看護師などスタッフ確保が難しく、経営が成り立つのか不安材料が大きい⑤病院に関する市民への情報提供と説明責任を果たさせることが難しい、⑥新病院は、すべて個室(有料個室が3割)、緩和ケア病棟がなくなり、人間ドッグ、特定検診などの検査はなく、患者用駐車場もない、⑦建設地は、1.3mの浸水地であり、六価クロムなどの汚染土地地である、⑧敷地面積不足のため、わざわざ協和会所有の土地を借りるという異例の措置、などの問題を指摘し、見直し、改善を求め続けています。

### 病床削減誤り証明

南海トラフ巨大地震、台風・豪雨など大規模災害やパンデミックが予想されるおり、病院の集中やベッド削減は絶対にしてはなりません。新型コロナによる緊急事態宣言の事態はそのことを証明しており、兵庫県下でも病院の医療崩壊が起っています。

また、お隣の伊丹市では600床の三次救急病院(現病院駐車場地)を直営で建設する計画ですが、キセラ新病院への影響が懸念されます。かねてから「キセラ新病院のスタッフ確保は大丈夫か」と指摘されていますが、市直営の三次救急600床の伊丹病院との競争となると、さらに厳しくなると予想されます。

### 再考を、の思い強まる

コロナ(パンデミック)や伊丹病院の建設といった変化を踏まえ、川西の新病院計画は再考すべきではないかを問いましたが、作田哲也理事は、「変更することは考えていない」との答弁でした。

私(黒田)は、「基本設計」の図面の説明、質疑への答弁を聴くにつけ、「いったん立ち止まり、計画を見直すべきだ」という思いをより強くしました。